

2022年1月28日

報道関係各位

株式会社 OKB総研

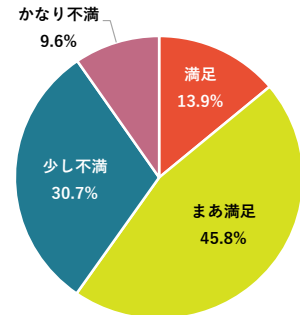
「夫の家事・育児負担および在宅勤務」アンケート結果について

株式会社OKB総研(大垣市郭町2-25 社長 青木義実)は、「夫の家事・育児負担および在宅勤務」アンケート結果を取りまとめましたのでご紹介します。

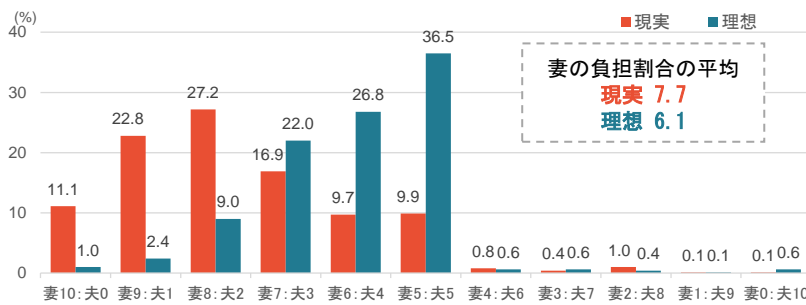
《要約》

1. 4割の妻が夫の家事・育児負担に「不満」。
2. 妻の家事・育児負担割合※は7.7と、家事・育児の大部分が妻に集中。
※家庭の家事・育児全体を10とした場合
3. 4割の妻は夫に在宅勤務を「利用してほしくない」。
理由は「食事の用意等が面倒だから」。
4. 夫の在宅勤務に期待する効果は「家事に時間を使う」。

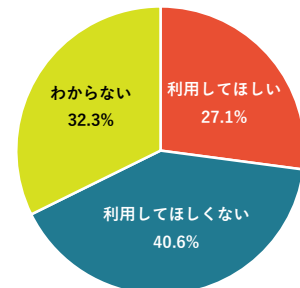
【夫の家事・育児負担に対する満足度】



【妻と夫の家事・育児分担割合】



【夫に在宅勤務してほしいか】



【調査概要】

1. 調査期間：2021年11月15日～11月19日
2. 調査方法：大垣共立銀行本支店（東京・大阪を除く）に来訪した主婦（注）805名にアンケート用紙を配布・回収（無記名方式）
本調査は、「主婦の消費行動に関するアンケート」と同時に実施
3. 有効回答者数：786名（有効回答率 97.6%）

4. 回答者属性：

年代	20歳代	6.5%
	30歳代	19.7%
	40歳代	24.7%
	50歳代	27.9%
	60歳以上	21.1%
住所	岐阜県	53.8%
	愛知県	41.7%
	三重県	2.2%
	滋賀県	2.4%
	その他	0.0%
就業形態	専業主婦	10.0%
	正社員・公務員・自営業	42.1%
	パートタイマー	46.1%
	内職・その他	1.8%

5. 集計結果表記：数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。

（注）本調査における「主婦」とは、既婚の女性で子どもの有無や就業形態は問わない。

資料配布場所：名古屋金融記者クラブ、大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：OKB総研 調査部 梅木 TEL 0584-74-2615 FAX 0584-74-2688】

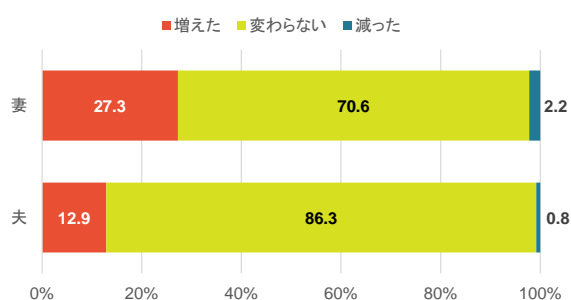
1. 家事・育児負担について

(1) コロナによる家事・育児負担の変化

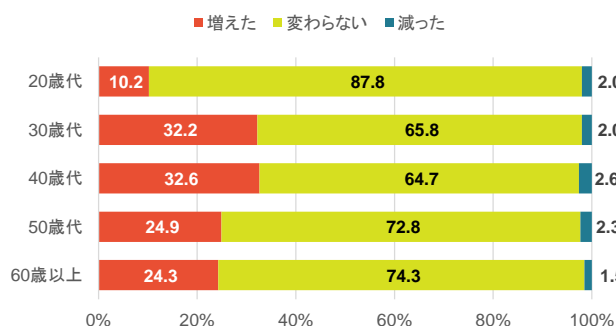
新型コロナが流行する前と比べて家事・育児の負担が増えたかどうか尋ねたところ、本人（妻）は「増えた」が27.3%、「変わらない」が70.6%、「減った」が2.2%となった（図表1）。3割弱の妻がコロナ禍で家事・育児負担が増えたと感じていた。それに対し、配偶者（夫）は「増えた」が12.9%で2倍以上の差があった。

妻の家事・育児負担の変化について年代別に見ると、30歳代と40歳代で「増えた」の回答率が3割超となっている。また、末子の属性別に見ると、幼児・小学生・中高生において「増えた」が3割超となっており、主に子育て世代で負担が増えていることが分かる。

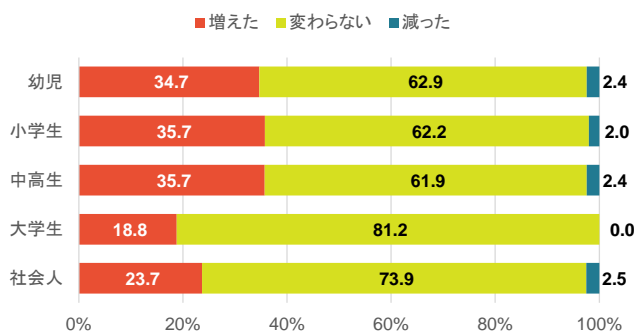
図表1 コロナによる家事・育児負担の変化



妻の家事・育児負担の変化（妻の年代別）



妻の家事・育児負担の変化（末子の属性別）



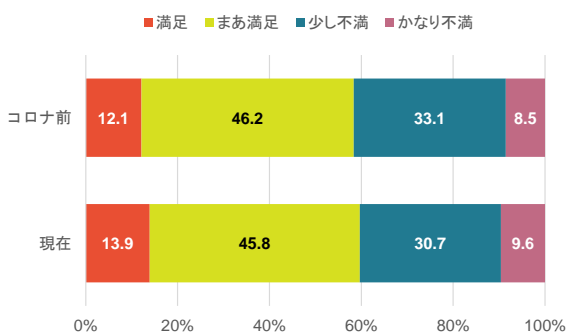
(2) 夫の家事・育児負担に対する満足度

夫の家事・育児負担に対する満足度を尋ねたところ、「満足」との回答（「満足」＋「まあ満足」）が59.7%、「不満」との回答（「少し不満」＋「かなり不満」）が40.3%となった（図表2）。新型コロナが流行する前については、「満足」が58.3%、「不満」が41.6%と、コロナ前と現在であまり大きな差は見られなかった。

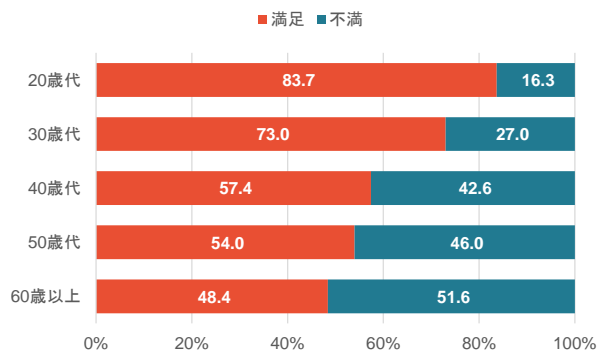
夫の現在の家事・育児負担に対する満足度について、妻の年代別に見ると、年代が高くなるほど「満足」の割合が低く、60歳以上は「不満」が「満足」を上回っている。

コロナによる家事・育児負担の変化について現在の満足度別に見ると、「満足」と回答した妻の場合、妻と夫の間に回答率の差はほとんど見られない。一方、「不満」と回答した妻の場合は、妻の「増えた」が44.1%なのに対し、夫は8.0%と5.5倍の開きがある。

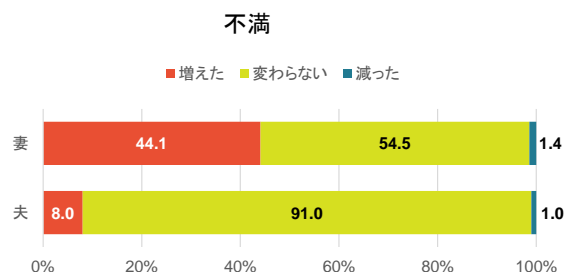
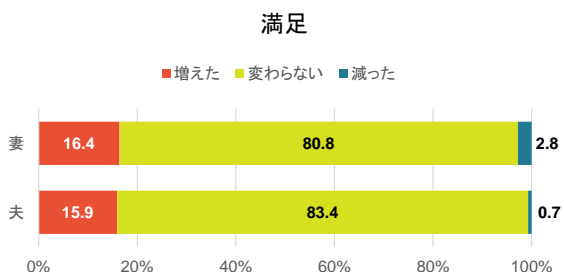
図表2 夫の家事・育児負担に対する満足度



夫の現在の家事・育児負担に対する満足度（妻の年代別）



家事・育児負担の変化（満足度別）

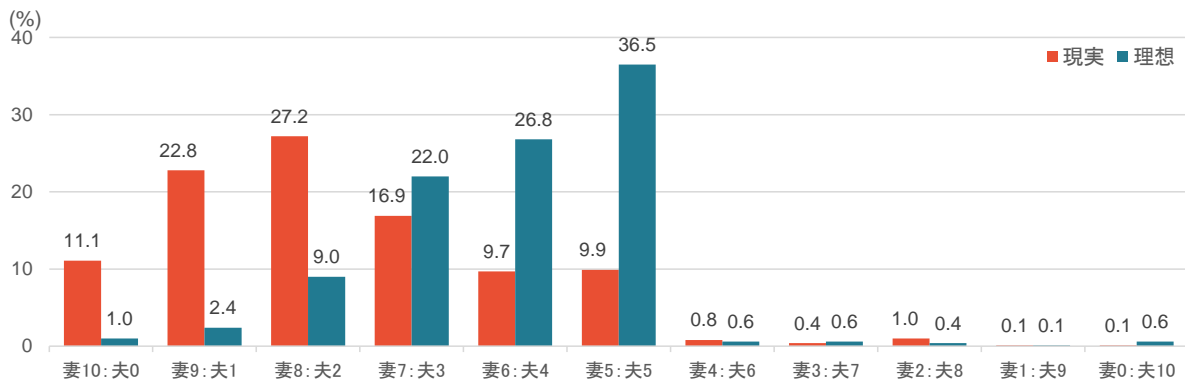


(3) 妻と夫の家事・育児分担割合

家庭の家事・育児全体を10とした場合の、妻と夫の家事・育児分担割合を尋ねたところ、最も回答率が高かったのは「妻8：夫2」(27.2%)だった。妻が7割以上との回答(「妻10：夫0」+「妻9：夫1」+「妻8：夫2」+「妻7：夫3」)は78.0%に上った。一方、理想とする家事・育児分担割合を尋ねると、最も回答率が高かったのは「妻5：夫5」(36.5%)だった(図表3)。

妻の現実の負担割合の平均は7.7となった。理想の負担割合の平均も6.1と、夫婦平等を示す5よりも高い値を示した。また、現実の負担割合と理想の負担割合の差は1.6と、現実と理想との間に乖離が見られる。妻の年代別に見ると、特に40歳代以上が7.9と高く、理想との差も大きくなっている。反対に20歳代の妻は6.3と最も低く、理想との差も0.7と最も小さい。妻の就業形態別に見ると、パートや正社員等といった就労している場合でも妻の負担割合は7を超えている。夫の家事・育児負担に対する満足度別に見ると、「不満」と回答した妻の負担割合は8.4と高い値を示しており、理想との差も2.3と突出している。

図表3 妻と夫の家事・育児分担割合



妻の家事・育児負担割合の平均 (妻の属性別)

	現実	理想	差
全体	7.7	6.1	1.6
20歳代	6.3	5.6	0.7
30歳代	7.2	6.1	1.2
40歳代	7.9	6.2	1.7
50歳代	7.9	6.1	1.8
60歳以上	7.9	6.0	2.0
専業主婦	7.9	6.7	1.2
正社員等	7.3	5.8	1.5
パート	8.0	6.2	1.8
満足	7.1	6.1	1.1
不満	8.4	6.1	2.3

(4) 家事・育児負担に関する自由意見

家事・育児負担に関する自由意見では、「夫の家事負担が少ないと感じる」「夫が全く家のことをしない」と不満の声が聞かれた。また、「女性が家事・育児をして当たり前という時代はなくなっ
てほしい」という声がある反面、「収入が夫より少ないなら家事負担が多くても仕方がない」とい
う声も聞かれた。しかしその一方で、性別や収入差に関係なく「時間に余裕があるほうがやればよ
い」「お互いの仕事や体調に合わせてやるべき」「育児については全員でやる」という意見もあつた。

家事・育児負担に関する自由意見（抜粋）

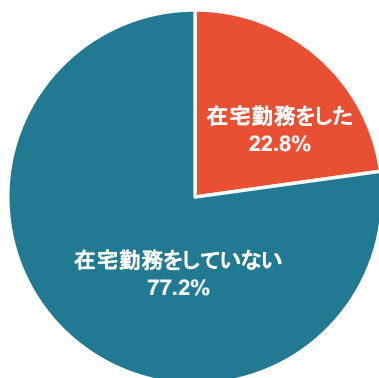
- ・ 共働きなので、できることをおたがいがやる。(30 歳代／正社員等)
- ・ 女性の家事・育児の負担は以前に比べると減ったが、社会全体が変わらないと平等になるのは
難しい。(30 歳代／正社員等)
- ・ 共働きの家庭では、家事・育児は家族全員で！(40 歳代／正社員等)
- ・ 配偶者の家事負担が少ないとすごく感じた。(40 歳代／正社員等)
- ・ やってほしい事（出来る事）を明確にするといいかも。(40 歳代／正社員等)
- ・ 子供の塾の送迎など、夫が仕事を早く終われる環境などあれば助かる。(40 歳代／パート)
- ・ 大黒柱である主人の収入とくらべ、私の収入は少ないので、家事の負担が多いのはしかたない
と思ってましたが、育児は手伝ってほしかったです。共働きで同等の収入があれば家事も半分
負担してほしかったと思います。(40 歳代／パート)
- ・ 頼めばやってくれる家事もあるが、自分がやれない事をやってもらえると大変助かると思う。
(50 歳代／正社員等)
- ・ 女は家事、育児が当たり前という時代は早くなくなってほしい。男女共に、自立し合う関係性
が当たり前になると良い。(50 歳代／正社員等)
- ・ 私が仕事して（常勤）で主人が隠居しているが、全く家の事をしない（洗濯物とりこみだけす
る）。昭和の人（夫）に今さら教育しようと思わないので、今後も私の負担は変わらない。(50
歳代／正社員等)
- ・ 座っているだけで何もしないならいない方がいいです。家事も育児も「どちらがどれだけ」で
はなくお互いの仕事や体調に合わせてできる方がやるべきです。そしてお互いに感謝の気持ち
を忘れず、言葉にして伝えることが大切です。(50 歳代／パート)
- ・ 手があいている時には、お互いに、何か協力できると、日常生活がスムーズにいきます。(50 歳
代／パート)
- ・ 時間がある人が、やればよいと思います。外で仕事をしている主人が、出来ることを手伝って
くれれば、いいです。育児に関する事だけは、積極的に意見を出し合って協力することが大
切になると思います。(50 歳代／パート)
- ・ どの様な状況になっても、協力が家族の中で、共有されていれば良いと思います。(50 歳代／パ
ート)
- ・ 夫婦と一緒にやっているとコミュニケーション等取れると思うし、夫婦円満になると思います。
(50 歳代／パート)
- ・ 今の若いお母さん方は我々（60 代～70 代）に比べると、働いてみえる方が多いので、大変だろ
うと思います。しかし、息子もそうですが、若いお父さん方は昔と比べ、格段に協力的ではあ
りません。(60 歳以上／正社員等)
- ・ 仕事で遅くなった時は、協力してほしい。(60 歳以上／パート)

2. 夫の在宅勤務について

(1) 夫の在宅勤務の経験

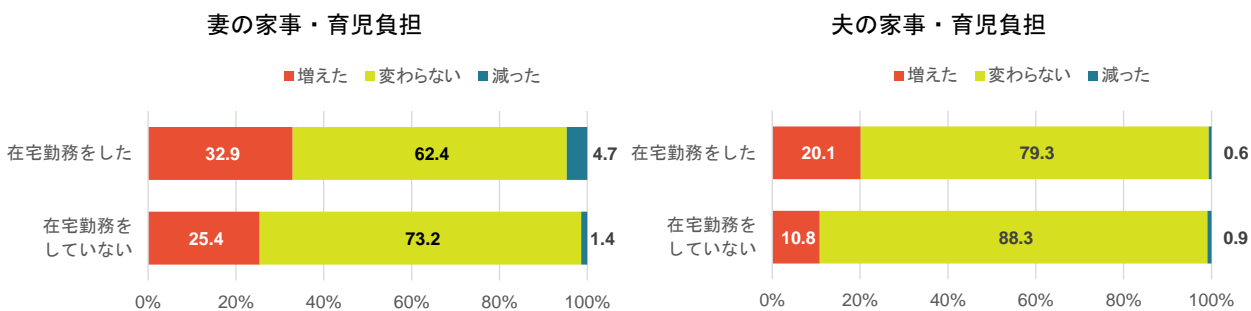
新型コロナが流行して以降、夫が在宅勤務をしたかどうか尋ねたところ、「在宅勤務をした」が22.8%、「在宅勤務をしていない」が77.2%となった（図表4）。この地域で在宅勤務をした夫は2割にとどまった。

図表4 夫の在宅勤務の経験



コロナによる家事・育児負担の変化について、夫の在宅勤務の経験別に見てみると、夫が在宅勤務をした家庭では、32.9%の妻が「増えた」と回答した（図表5）。夫の家事・育児負担についても、在宅勤務をした家庭では20.1%が「増えた」と回答したものの、妻の「増えた」を10ポイント以上下回っている。

図表5 コロナによる家事・育児負担の変化（夫の在宅勤務の経験別）

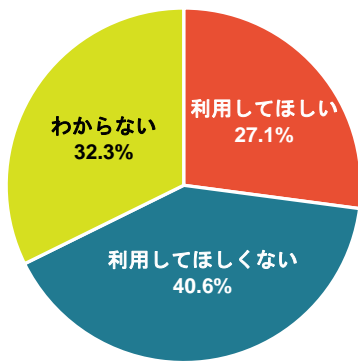


(2) 夫に在宅勤務してほしいか

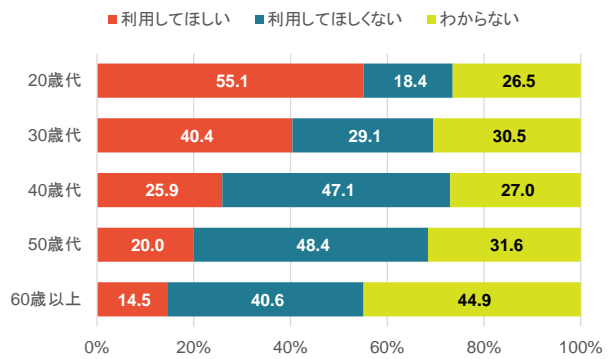
夫に在宅勤務を利用してほしいと思うか尋ねたところ、「利用してほしい」が27.1%、「利用してほしくない」が40.6%となった（図表6）。妻の年代別に見ると、若い年代ほど「利用してほしい」の回答率が高い。また、末子の属性別に見ると、幼児において「利用してほしい」の回答率が44.7%と高く、「利用してほしくない」を大きく上回っている。

夫の在宅勤務の経験別に見ると、夫が在宅勤務をした妻は、夫が在宅勤務をしていない妻と比べ、「利用してほしい」の回答率が高くなっている。一方、夫の家事・育児負担に対する満足度別に見ると、夫の家事・育児負担に不満な妻は半数以上が「利用してほしくない」と回答している。ここで妻の家事・育児負担割合の平均を見ると、「利用してほしくない」と回答した妻は8.1と妻の負担が特に重いうえに、理想との差は1.9と理想と現実の乖離も大きい。家事・育児負担が重い妻は夫に在宅勤務を望まない傾向にあることが分かる。

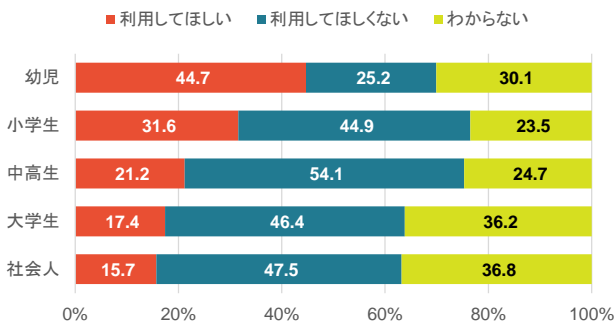
図表6 夫に在宅勤務してほしいか（全体）



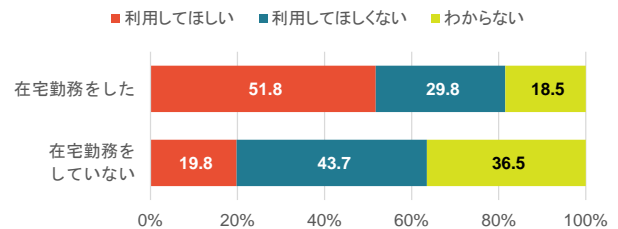
夫に在宅勤務してほしいか（妻の年代別）



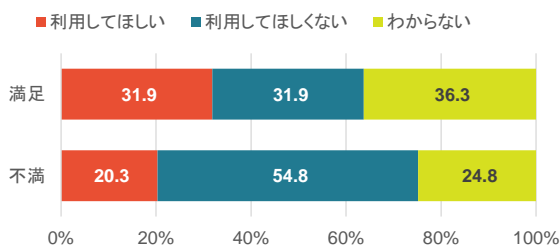
夫に在宅勤務してほしいか（末子の属性別）



夫に在宅勤務してほしいか（夫の在宅勤務の経験別）



夫に在宅勤務してほしいか（満足度別）



妻の家事・育児負担割合の平均（夫の在宅勤務の希望別）

	現実	理想	差
利用してほしい	7.2	5.9	1.3
利用してほしくない	8.1	6.2	1.9

夫に在宅勤務を「利用してほしい」と回答した理由としては、「家事・育児の協力が得やすい」との声が多かった。また、「新型コロナの感染リスクを減らすため」「家族で過ごす時間が増える」「通勤の負担が減る」との声も多く聞かれた。

一方、夫に在宅勤務を「利用してほしくない」と回答した理由としては、「食事の用意等が大変」との声が多かった。また、「1人の時間が減る」「食費や光熱費が増える」「静かにするなど気がつかう」との声も多く聞かれた。

在宅勤務を利用してほしい理由（抜粋）

- ・ 自分が働いており、家事をしてもらえると助かるから。（20歳代／正社員等）
- ・ 子どもの迎えやゴミ出しなど手伝ってくれるようになった。（30歳代／正社員等）
- ・ 夕食を作ってくれるため。（30歳代／正社員等）
- ・ 子どもの体調不良等に私が仕事を休まなくてもいいから。（40歳代／パート）
- ・ 子供がまだ小さいので、在宅勤務で感染リスクを減らしてほしい。（30歳代／正社員等）
- ・ コロナで夫の感染が心配だった。（60歳以上／パート）
- ・ 子供達が喜ぶ。家族で過ごす時間が増える。（30歳代／パート）
- ・ 通勤時間がないため負担がなく気持ち的に楽だったようです。（30歳代／正社員等）

在宅勤務を利用してほしくない理由（抜粋）

- ・ 食事の準備や家事が大変。時間帯を気にして家事が進まない。（20歳代／正社員等）
- ・ 家にも家事を期待出来ないの。（60歳代／正社員等）
- ・ 自分が外に出て働いている間、家にいてもらいたくない。光熱費、食費がかかるし家の中が汚れる。（50歳代／パート）
- ・ 1人時間がなくなるのが嫌だから。（30歳代／専業主婦）
- ・ 一緒に時間が増えると仲が悪くなりそうだから。（40歳代／正社員等）
- ・ 在宅勤務できるような仕事内容ではないから。（40歳代／パート）
- ・ 子供を静かにさせて仕事に集中できる環境作りをしないといけないから。（40歳代／正社員等）
- ・ 生活のリズムがくるう。（60歳以上／専業主婦）

(3) 夫の在宅勤務に期待する効果

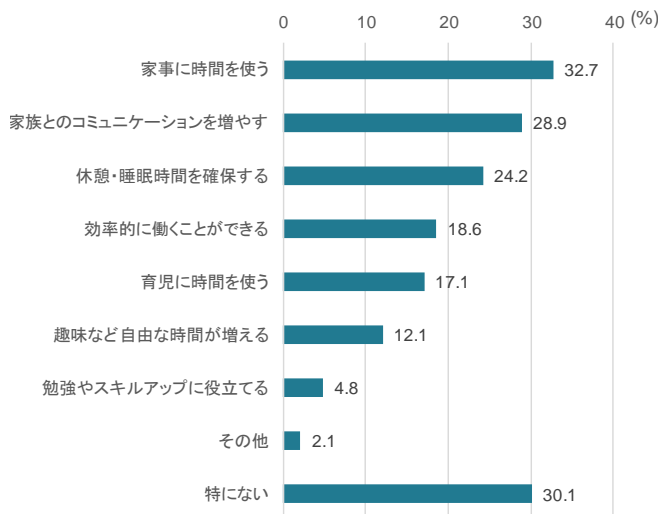
夫の在宅勤務に期待する効果を尋ねたところ、「家事に時間を使う」が32.7%、次いで「家族とのコミュニケーションを増やす」が28.9%、「休憩・睡眠時間を確保する」が24.2%となった。一方、「特にない」は30.1%に及んだ（図表7）。

妻の年代別に見ると、20歳代と40歳代は「家事に時間を使う」、30歳代は「家族とのコミュニケーションを増やす」が最も回答率が高かった。在宅勤務を「利用してほしくない」の回答率が高かった50歳代と60歳以上については、「特にない」が最も回答率が高い。また、同じく「利用してほしくない」が高かった40歳代も「特にない」が3割に及んでいる。一方、20歳代と30歳代は「特にない」が1割程度となっており、比較的若い年代の9割が在宅勤務に何らかの効果を期待している。

「育児に時間を使う」については、20～40歳代の回答率が高く、特に30歳代は43.3%と突出している。さらに末子の属性別に見ると、特に幼児や小学生において「育児に時間を使う」の回答率が高い。在宅勤務は幼い子どもがいる家庭にニーズがあることが読み取れる。

妻の就業形態別に見ると、正社員等は「家事に時間を使う」が40.6%と最も高く、他と比べて突出している。理想とする家事・育児負担割合の平均が5.8と比較的低い値を示していたことから、正社員等の妻は、在宅勤務の夫に対し家事を期待する傾向が強いことが分かる。

図表7 夫の在宅勤務に期待する効果 ※複数回答



夫の在宅勤務に期待する効果（属性別）

	家事に時間を使う	家族とのコミュニケーションを増やす	休憩・睡眠時間を確保する	効率的に働くことができる	育児に時間を使う	趣味など自由な時間が増える	勉強やスキルアップに役立てる	その他	特にない
20歳代	61.2	30.6	30.6	34.7	20.4	14.3	4.1	0.0	10.2
30歳代	47.3	48.7	29.3	20.7	43.3	8.7	6.0	2.0	10.7
40歳代	31.6	29.9	26.2	16.6	21.9	9.1	4.3	2.1	30.5
50歳代	23.3	20.9	21.4	18.4	1.5	14.1	4.9	2.4	38.8
60歳以上	22.6	17.5	18.2	13.9	4.4	16.1	4.4	2.2	44.5
専業主婦	20.9	29.9	17.9	16.4	11.9	13.4	7.5	6.0	29.9
正社員等	40.6	26.1	26.7	19.8	18.5	11.6	4.3	1.3	27.7
パート	28.4	31.3	23.9	18.4	17.0	11.8	4.3	2.0	31.3
幼児	49.6	47.1	21.5	20.7	59.5	4.1	6.6	3.3	9.1
小学生	36.5	43.8	31.3	16.7	30.2	13.5	5.2	1.0	18.8
中学生	28.2	24.7	16.5	12.9	8.2	7.1	3.5	1.2	40.0
大学生	26.9	22.4	29.9	17.9	0.0	17.9	4.5	3.0	31.3
社会人	21.1	18.1	21.1	17.7	3.0	15.2	4.6	2.1	43.5

(注) 網掛けは、各属性における最も回答率の高い項目。

(4) 夫の在宅勤務に関する自由意見

夫の在宅勤務に関する自由意見では、「在宅勤務でも夫に家事を期待できない」「普段家事をしない人は、在宅勤務になっても家事をするわけではない」という声が聞かれた。また、「会社からの強制でなく、家庭の事情に合わせて在宅勤務するかを選べたらいい」という意見もあった。

夫の在宅勤務に関する自由意見（抜粋）

- ・ 在宅勤務の夫の方が家にいる時間が長いはずなのに、帰ったばかりの私にごはんはまだ？という顔をする。(30 歳代／正社員等)
- ・ 今よりもっと多くの職種で在宅勤務が可能になるといいなと思いました。(30 歳代／パート)
- ・ 各々の家庭により、働き方や事情が異なるため、どんな形が良いのかは決められない。これから社会を担う若い人達があらゆる差別のない、働きやすい環境となることを願っている。(40 歳代／正社員等)
- ・ 在宅勤務が出来る仕事であれば、やった方がいいと思います。通勤時間を有効に使える。(40 歳代／パート)
- ・ 在宅勤務は部屋数が無いときびしいのでは？(40 歳代／パート)
- ・ 生活スタイルによって在宅もしくは勤務時間を選べたりするといいと思う。(40 歳代／パート)
- ・ 夫の仕事の様子、妻の家事の様子が、在宅勤務によりお互い少しでも理解できるのではないのでしょうか。(50 歳代／専業主婦)
- ・ 配偶者の在宅勤務は求めているが、自分が在宅になれば今より家事はこなしやすくなると思う。(50 歳代／正社員等)
- ・ 普段、家事をしない方は、在宅勤務で家に居るからといって家事をする訳ではない。この事より、家にいる時間が長いのだから…という考えの希望は現実とのギャップを生み、トラブルになるだけだと改めて感じました。(50 歳代／正社員等)
- ・ 職種や仕事量、手にかかる年齢の子どもがいるかどうか等、その家庭によって違うと思うので、会社からの強制でなく、その家庭によって選べるのが一番理想だと思う。(50 歳代／パート)
- ・ 在宅勤務になり、主婦としてのスケジュールが変化したと感じます。「いる、いない」とでは、行動が変わりました。(60 歳以上／専業主婦)

以上